

ハンセン病に関する 「親と子のシンポジウム」

と き **9月23日(金・祝日)**

開演 午後1時30分(開場 午後0時30分)
終演 午後5時予定 入場無料

と ころ **熊本学園大学14号館 高橋守雄記念ホール**

熊本市大江2丁目5番1号

※駐車場がないため、公共交通機関をご利用ください。

内 容 **第1部 シンポジウム**

●基調講演 ●パネルディスカッション

第2部 ファミリーコンサート

第3部 ビデオ上映

詳細は熊本地方務局ホームページをご覧ください。

<http://houmukyoku.moj.go.jp/kumamoto/frame.html>

問い合わせ先 熊本地方務局人権擁護課 ☎364-2145



人権イメージキャラクター
「人KENまもる君」



人権イメージキャラクター
「人KENあゆみちゃん」

こうし 歴史発見!

第42回

合志市の今昔 その十一

合志市須屋(旧西合志町大字須屋)

須屋は市の南端に位置し、南部地区は熊本市および菊陽町と接しています。
明治5年(1872)には、すでに須屋村として存在していて、明治22年(1889)には32回に記したように他の4カ村と合併して西合志村大字須屋となりました。
寛永10年(1633)の「人畜改帳」は、須屋村と須屋出分村に分けて記載され、須屋村は106人、牛馬39疋(頭)、須屋出分村は22人、牛馬7疋と記されています。
ところで黒石には寛永13年(1636)に鉄砲地筒(月の内5日は城内に行き業務に服し、それ以外は農耕に従事した)が置かれ36戸が入植しました。また、明治13年(1880)に陸軍の大砲射撃場が開設されました。
明治15年の調べでは、185戸に952人が住んでいて、職業は農業が175戸、染物職1戸、桶具職3戸の記載があります。物産として、米149石、大豆250石、小豆50石、大麦50石、裸麦200石、粟1700石、蕎麦150石、甘藷20万貫、大根4万斤、柿2千斤、芋15百斤、筍4千斤、煙草15百斤、茶6百

斤、鶏卵2千個の生産がありました。(注…百斤≒60kg、16貫、1石≒150kg、ただし粟は112.5kg)
黒石の旧軍用飛行場跡地は、昭和21年に当初25戸(県内15戸、県外10戸で118人)が入植して開拓が始まり、昭和24年には宅地と畑を合わせ計約78町4反が個人に売り渡され、後に新開と改められました。新開区は平成21年末には1149世帯(3846人)と大きく拡大しました。
須屋には再春荘病院(旧傷痍軍人療養所再春荘、昭和17年設立、九州沖縄農業研究センター(昭和25年発足)、熊本高等専門学校熊本キャンパス(昭和48年に熊本市より移転)などの大型公共施設があります。
文化財には、市指定の須屋神社三十六歌仙絵馬(西合志郷土資料館で展示)、梨の本遺跡(縄文・古墳時代、須屋)、宿の山遺跡(縄文・古墳時代、須屋)、須屋城跡(室町時代、須屋)、大慈院の宝篋院塔(江戸時代、黒石)、放牛地蔵の47体目(須屋山ノ上・75体目(須屋木実坂)などがあります。
明治15年には952人であった須屋の人口は、昭和40年代から熊本市のベッドタウンと化し、平成22年12月末には21758人となり、実に23倍にもなりました。



黒石の地名の起こりの大石(大慈院内)



人権教育シリーズ⑩

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

『知り合おう。分かり合おう。そして、つながろう!』

～人と人のつながりを大事にしながら～

～西合志東小学校～

本年度、西合志東小学校は、児童1,060人、教職員74人でスタートしました。各学年4～6学級と学級数も多く、「子どもたち一人ひとりの暮らし」をキーワードにして、人と人の温かい大切なつながりを創っていかうということで、『知り合おう。分かり合おう。そして、つながろう。』というテーマを設けて、人権学習の取り組みを進めています。

人権学習、公開授業

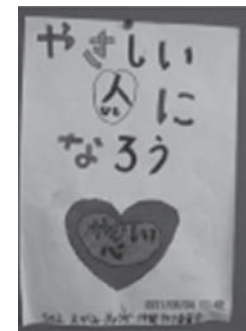
6月22日、学校教育部会の人権教育公開授業を実施しました。各学年、『かお』(1年)、『森のなかま』(2年)、『もやもや書き』(3年)、『私は、さびしさに負けない』(4年)、『泣こて、腹んたつ』(5年)、『私の気持ちがわかりますか』(6年)という教材の学習を通して、自分たちの暮らしの中にある差別や偏見につながるものの見方や考え方を見つめなおし、どのようにして安心して過ごせる学級や学校にしてい



いくのかを学び合いました。市内の多くの先生たちが参加し、貴重な意見や感想などをたくさんいただきました。

人権教育部からの提起を受けて

4月当初、5年部(5クラス)では担任だけでなく、専科の先生や多くの先生たちと協働しながら、子どもたち一人ひとりを育てていくと確認し、『見つめ、知り合い、認め合う5年生』という学年目標を決定しました。そして、1学期の始業式の後『学年開き』を行ない、5年部をスタート。後日、『学級開き』、『教科書にこめられた願い』などの取り組みを行ないました。1学期の人権月間では、公開授業の取り組みから6月に5年部人権集会を実施しました。子どもたちが、各学級の代表者の発表に自分のこれまでのくらしを振り返りながらしっかり返しをしていく姿がありました。「…集会があつてよかった。」「…自分のことを振り返ることができた。」などその日の子どもたちの日記を読み返しなが



「泣こて腹んたつ」を学習して

ぼくは、4年のころ、「仲間はずれをなくそう。」と言っていたけど、人によって態度を変えていたと思います。そして、仲間はずれを少ししていただく、「泣こて腹んたつ」を学習して、だんだん仲間はうれしさをされた人の気持ちがわかりました。「泣こて腹んたつ」の話では、みんなで人をいじめて、関係ない家族までまきこんでいました。ぼくが言われていたら泣いていると思います。悪口やいじめを見たら注意をして、仲直りをさせていす。そして、友だちの多い学校にしたいです。

また、他の学年部同様、5年部として大事にしていることは、週1回の学年会や朝会の後などに、クラスのことを出し合い、常に子どもたちのことを話題にしていることです。本校では、特に学年部として教育活動を創造し、子どもたちにかかわっていくことを大事にしています。

ステップアップ

2学期は、人権月間の取り組みとして人権学習の授業や低・中・高学年部の人権集会や平和集会、人権学習の授業参観などを実施し、3学期は、人権学習の授業や学年部の集会などを実施します。私たち教職員が、子どもたちのくらしの事実を大事にしながら、人権学習を教育活動の中心に据え、子どもたちと協働の活動や学習を大事にしながら、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる学級・学校づくりを目指していきます。

今回は12月号に掲載予定です。